

安全データシート (SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 : 水膨張ウレタンゴム
製品名 : リステンシール D-51
整理番号 : NRB010
会社名 : 日本リステン株式会社
住 所 : 〒509-5103 岐阜県土岐市泉東窯町 4 丁目 65 番地
担当部門 : 製造部
電 話 : 0572-53-4123
ファックス : 0572-53-4125

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 分類対象外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 分類できない

急性毒性(経皮) : 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) : 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) : 分類できない

急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) : 分類できない

皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 分類できない

呼吸器感受性 : 分類できない

皮膚感受性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 区分2 発がんのおそれの疑い

生殖毒性 : 区分1 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分2 臓器の障害のおそれ

(肝臓、呼吸器系、腎臓、中枢神経系)

特定標的臓器毒性(反復暴露) : 区分2 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ

(呼吸器系、神経系)

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) : 区分3 水生生物に有害

水生環境有害性(長期間) : 区分3 長期継続的影響により水生生物に有害

オゾン層への有害性 : 分類できない

ラベル要素
絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : ・発がんのおそれの疑い
・生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
・臓器の障害のおそれ
・長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ
・長期継続的影響により水生生物に有害

<取扱い注意>

<安全対策> ・取扱う前に、「安全データシート」をよくお読みのうえ作業して下さい。
・炎および高温のものから遠ざけてください。
・飲み込んだり、吸い込んだり、眼、皮膚に触れないようにし、取扱い中は、
保護眼鏡、保護手袋、保護マスクなどの適切な保護具を着用して下さい。
・取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをして下さい。
・環境への放出を避けて下さい。

<救急処置> ・火災時には、炭酸ガス、粉末または泡消火器で初期消火に当たり、火災が広が
った場合は、泡消火剤または多量の噴霧水で消火して下さい。
・飲み込んだ場合は口をすすいで下さい。無理に吐かせないで下さい。
・吸入した場合は空気の新鮮な場所で、呼吸しやすい姿勢で休息させて下さい。
・皮膚に付着した場合は多量の水と石鹼で洗って下さい。
・眼に入った場合水で数分間注意深く洗って下さい。次にコンタクトレンズを着
用していて容易に外せる場合は外して下さい。その後も洗浄を続けて下さい。
・暴露または暴露の懸念がある場合は医師の診断／手当を受けて下さい。

<保管> ・容器を密閉して換気の良い場所で保管して下さい。

<廃棄> ・都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理して下さい。

3. 組成、成分情報 (含有量は代表値)

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名 : -

成分及び含有量	NCO基末端ウレタンプレポリマー	40%
	フタル酸系可塑剤	15%
	キシレン	3%
	エチルベンゼン	2%
	シリカ	3%
	酸化チタン(IV)	6%
	無機粉末等	31%

化審法番号 : あり

安衛法番号 : あり

CAS No. : あり

危険有害成分及び不純物

	キシレン	3%
	エチルベンゼン	2%
	メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(モノメ リックMDI)	0.1%
	シリカ	3%
	酸化チタン(IV)	6%

4. 応急措置

吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所へ移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受

- ける。
- 皮膚に付着した場合 : 柔らかい紙、布等で拭き取って、多量の水及び石鹼で洗い流す。症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗眼(まぶたの裏までよく洗う)した後、速やかに医師の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせてはならない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
-

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 二酸化炭素、粉末、泡、水噴霧
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 特定の消火方法 : 火元への燃焼源を絶ち、消火剤を使用して消火する。
周囲の設備などに散水して冷却する。
鎮火後は漏れた本製品の中和作業を行う。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は、可能な限り風上から行い有毒なガスの吸入を避ける。
消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出防止、除害などの作業は、必ず、保護具(手袋、保護眼鏡)を着用する。
こぼれた場所は滑り易いため注意する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材 : 付近の着火源となるものを取り除く。
土砂等の不燃物で囲い流出を防止し、スコップまたは吸引機等で空容器に回収する。
回収後の少量の残留分は、土砂またはオガクズ等に吸収させ回収する。
残留分が極少量の場合は、ウエス等で拭き取る。
回収後の床は、中和剤を散布し、中和、除害の処置をとる。
回収物の収納容器は密閉せずに「廃棄上の注意」の記載内容に従って廃棄する。
中和剤の例: 水／炭酸ナトリウム／液体洗剤＝90－95／5－10／0.2－2(重量比)
-

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 作業場の換気を十分に行い、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。
- 局所排気・全体換気 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 注意事項 : 強酸化剤との接触は避ける。
火気注意。
蒸気またはヒュームやミストを吸入しないようにする。
本品(イソシアネート溶液)と反応する水等の物質との接触には十分注意する。
- 安全取扱い注意事項 : 取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。
- 保管
- 適切な保管条件 : 通気の良い場所(35℃以下が望ましい)で密栓保管する。
- 包装容器材料 : 製品使用容器に準ずる。
-

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	： 蒸気、粉塵またはヒューム、ミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。	
	： 取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。	
管理濃度	： 50ppm(キシレン)	
	： 20ppm(エチルベンゼン)	
許容濃度		
日本産業衛生学会	： (TWA) 50ppm(エチルベンゼン)	(1)
	： (TWA) 50ppm(キシレン)	(1)
ACGIH	： (TWA) 20ppm(エチルベンゼン)	(2)
	： (TWA) 100ppm(キシレン)	(2)
保護具		
呼吸器用の保護具	： 必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気式マスクを使用する。	
手の保護具	： 不浸透性保護手袋	
目の保護具	： 側板付保護眼鏡	
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣	

9. 物理的及び化学的性質 (代表値)

物理的状态	
形状	： パテ状
色	： 灰色
臭い	： 特異臭
pH	： データなし
物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲	
沸点	： データなし
流動点	： 20℃で流動しない
引火点	： 52℃(セタ密閉式)
発火点	： データなし
爆発特性	
爆発限界	： データなし
比重	： 1. 30(20℃)
溶解性	
溶媒に対する溶解性	水… 不溶
	トルエン、キシレン、アセトン、酢酸エチル…可溶
粘度	： 800000mPa・s(25℃)
蒸気圧	： データなし
分解温度	： データなし
n-オクタノール／水分配係数	
	： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	： 通常の取扱い条件においては、光、熱、衝撃に対して化学的に安定。
危険有害反応性の可能性	
	： 強酸化剤とは反応して危険。
	： 水、アルコール、アミン類等活性水素化合物と反応して発熱する。
避けるべき条件	： データなし
混触危険物質	： 強酸化剤
	： 水、アルコール、アミン類等活性水素化合物
危険有害な分解生成物	
	： データなし
その他	： データなし

11. 有害性情報 (本品または成分の情報およびその類似品の情報)

本品は酸化チタン、シリカを含有するが、ペースト中に均一に分散しており、酸化チタン、シリカ自体の有害性は発現しないと考える。

急性毒性(経口)	: 分類できない データなし	
急性毒性(経皮)	: 分類できない データなし	
急性毒性(吸入:ガス)	: 分類対象外 GHSの定義におけるガスではない。	
急性毒性(吸入:蒸気)	: 分類できない データなし	
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	: 分類できない データなし	
皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない データなし	
眼に対する重篤な損傷/眼刺激	: 分類できない (参考)眼に触れると激しい痛みが起こり、すぐに取り除かないと視力障害を残す事がある。	
呼吸器感作性	: 分類できない データなし	
皮膚感作性	: 分類できない データなし	
生殖細胞変異原性	: 分類できない データなし	
発がん性	: 区分2 メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(モノメリックMDI) 区分外 キシレン 区分外 エチルベンゼン 区分2	(3) (4) (4)
生殖毒性	: 区分1 メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(モノメリックMDI) 区分外 キシレン 区分1B エチルベンゼン 区分1B	(3) (4) (4)
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 区分2(肝臓、呼吸器系、腎臓、中枢神経系) メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(モノメリックMDI) 区分3(気道刺激性) キシレン 区分1(呼吸器系、肝臓、中枢神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用) エチルベンゼン 区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)	(3) (4) (4)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 区分2(呼吸器系、神経系) キシレン 区分1(呼吸器系、神経系)	(4)
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない データなし	

12. 環境影響情報 (本品または成分の情報およびその類似品の情報)

水生環境有害性(急性)	: 区分3 メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(モノメリックMDI) 区分外 キシレン 区分2 エチルベンゼン 区分1	(3) (4) (4)
-------------	--	-------------------

生態毒性	: データなし	
水生環境有害性(長期間)	: 区分3	
	メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(モノメリックMDI) 区分外	(3)
	キシレン 区分2	(4)
	エチルベンゼン 区分外	(4)
残留性/分解性	: データなし	
生体蓄積性	: データなし	
土壌中の移動性	: データなし	
その他の有害性	: データなし	
オゾン層への有害性	: 分類できない	
	データなし	

13. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制	: 航空輸送はICAO/IATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。
国連分類	: 国連の分類基準に該当しない
国連番号	: 国連の分類基準に該当しない
海洋汚染物質	: 該当せず
国内規制	: 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	: 運搬に際しては、容器の漏れのないこと及び所定の表示のあることを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
緊急時応急措置指針番号	: 171

15. 適用法令

化審法	: 特定化学物質	: 該当せず
	: 監視化学物質	: 該当せず
	: 優先評価化学物質	: エチルベンゼン キシレン
労働安全衛生法	: 特化則	: 第2類物質(エチルベンゼン)
	: 有機則	: 該当せず
	: 表示物質(法57条の関係)	: キシレン エチルベンゼン
	: 通知対象物(法57条の2の関係)	: エチルベンゼン(2.1%含有) キシレン(2.5%含有) 酸化チタン(IV)(6%含有) シリカ(3%含有) メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート(別名MDI)(0.1%含有)
	: 指針・通達物質(既存変異原化学物質等)	: 該当せず
	: 通達による表示物質	: 該当せず
	: 危険物	: 引火性の物
	: 安衛則326条の関係	: 該当せず
化学物質管理促進法(PRTR法)	: 特定第一種指定化学物質	: 該当せず
	: 第一種指定化学物質	: エチルベンゼン(2.1%含有) キシレン(2.5%含有)

		: 第二種指定化学物質	: 該当せず
消防法	: 危険物		: 該当せず
	: 指定可燃物		: 可燃性固体類 指定数量3000kg以上で該当
毒物及び劇物取締法	: 毒物、劇物		: 該当せず
危険物船舶運送及び貯蔵規則	: 危険物		: 該当せず
輸出貿易管理令	: 規制物質		: 該当せず
薬事法	: 日本薬局方		: 該当せず

16. その他の情報

- (1)「産業衛生学雑誌」(2012/9)(日本産業衛生学会)
- (2)「TLVs and BEIs」(2012)(ACGIH)
- (3)ウレタン原料工業会「SDS」
- (4)独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS分類結果データベース

* この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。

* ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。